

身近な地域の調査

広島県 公立中学校教諭

1 はじめに

これまで私は、身近な地域の調べ学習といえば、あまり受験に関係ないと考え多くの時間を割いてこなかった。そのため授業では、調査のポイントを指導はするものの、実際に調査活動をさせることがなかった。しかし、自分たちの生活する地域に目を向けさせることは、生徒が体験してきた知識を最大限に生かせる学習活動であり、生徒に主体性を促す活動でもある。そのことにより地理的事象や歴史的事象に興味・関心を高め、社会科を学ぶ楽しさを身につけることができると考えた。

2 地域調査学習を行うにあたって

現行のπ型学習で授業を行えば、地域調査の授業を終えるのが1学年の2学期になる。しかし、調査には日数もかかるので夏休みに実施させたいと考えた。それができれば1年生から3年生まで系統的に地域調査学習を積み重ねていくことができる。そこで、1年間を前期と後期に分け前期を地理、後期を歴史とする変則のπ型学習を取り入れた。そうすることにより、1学期の授業で帝国

書院版地理教科書p.44に掲載されている手順にしたがって調査方法を学ばせることを計画した。

1年生では、地域の中から自ら課題をみつけ探求することをテーマにした。また、2年生では地域の史跡調べをテーマにした。1・2年で学んだ調査をし、まとめ、発表するという学習は、総合的な学習の職場体験学習や学校訪問学習にも活かせると考えた。

3 1年生の取り組み

夏休みの課題レポート作りのため、生徒には次のような指示をした。

①留意すること

- ・地形図を参考にして地域をながめ、調べたいテーマを決める。
- ・ルートマップを作り、調査の準備をする。
- ・調査し、それがどのようにあるのか、いつごろからあるのか、どのようにして発展したのか自分との関わりはどのようなかなど、調べてわかったことや疑問をまとめる。
- ・みつけた場所を地図に記入する。
- ・調査して、さらに疑問に思ったことを課題とする。

・聞き取り調査を行う。

・書籍、インターネットなどから情報を得る

・調べた結果をまとめ発表する。

②調べるもの

学校、公共施設、郵便局、商店、コンビニエンスストア、ポスト、自動販売機、公園、畑、田、緑地、城跡、遺跡、石碑、道路、橋、川、水路、井戸、三角点、水準点、新しくできたもの、古くからあるものなど

また、教員側の準備として

- 2万5千分の1の地形図を準備
- 事前に地域をフィールドワークし、危険箇所がないかなど確認する

1章 身近な地域を調べよう

1. 空から身近な地域をながめてみよう

身近な地域の学習は小学校でもやったけれど、中学校の地域調査ってどのようなものかな。



私たちはふだん、自分が住んでいる身近な地域を、それほど意識せずに生活しています。毎日かよいなれている道なのにどこに何があつたか、意外と覚えていないということはないでしょうか。身近な地域をあらためて見なおしてみましょう。きっと新しい発見や、おどろきがあるはずです。

ここでは、東京都八王子市の中学生が、身近な地域を調べた例をとりあげました。この調査では、図①の手順のように、地域の特徴を調べています。これらを参考にして、あなたの身近な地域を調べることにしましょう。



帝国書院『中学生の地理（最新版）』p.44

ウ、保護者や地域に対し、活動内容を伝え、協力と理解を求める

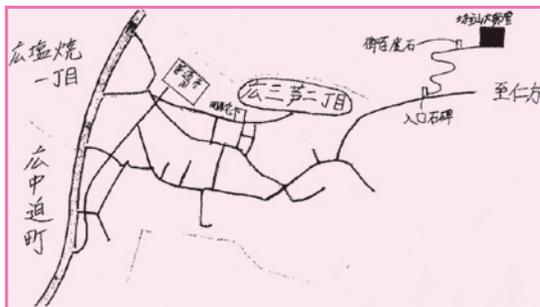
◎生徒作品から

坊主山大師堂・石碑－何故にそこに建つのか

※紙面の都合で写真の一部は割愛しました。



(下図は、地形図の円内を拡大したもの)



私はよく家族と犬の散歩で広三芦から登る吉松山のコースを歩く。三芦からお堂に行く途中の道端に、「坊主山大師堂入り口」(写真①)という石碑があり、何であるのか不思議に思った。そこで調査をしてみることにした。

写真①坊主山大師堂入り口



入り口から山道を200mぐらい登ると御百度石という石碑があり、そこから数m先にはお堂がある。

○聞き取り調査 (写真②)

円の中の二つのご神体 (写真③) は昭和16年野呂山の麓「穴水」という場所から、ご神体のそばにあった石とともに現在の場所に移された。

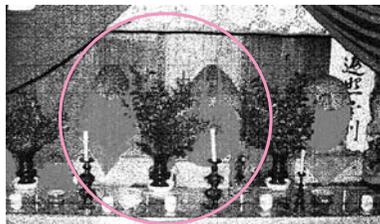
移した理由：当時40度の熱がなかなか下がらない
下松種一さんが、愛媛県の伊予から土方として

町田に出稼ぎにきていた山崎さんから次のよう

写真②お寺の世話人〇〇さん (80歳) に聞く



写真③大師堂の二つのご神体



に告げられた。「お大師さんを穴水から運び、祭ってくれたら病気や気の病から守られる」
移した結果：下松種一さんの病が治る。当時、三芦30数軒のうち5軒あった座敷牢が気の病の人のために使わなくて済むようになった。岡原ハルエさんの母、岡原コメさんとともに板に刻まれていた人たち16名は大往生した。土地の提供者は裕福になった。

ご神体移転当時、ご神体を置かれた場所を境に男山、女山と呼ばれ、桜見物の広場になった。

酔客や子どものいたずらから守るために、寄付を集め昭和51年に大師堂を建立した。毎月24日に真言宗のお坊さんがこられ、般若心経で「南無大師遍照金剛」とお唱えになる。

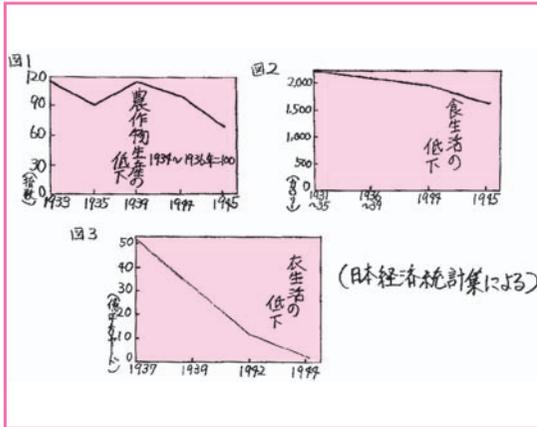
○考 察

ご神体移転時の時代背景

年 代	おもなできごと (広島西部朝日会資料)
昭和15	切符制による米と砂糖の配給実施 日独伊三国軍事同盟成立
昭和16	大政翼賛会発足 小学校を国民学校と改称 日ソ中立条約調印 仁方町と広村が呉市に合併 太平洋戦争 呉海軍工廠で戦艦「大和」竣工

昭和16年は、太平洋戦争がはじまる年であり、呉市は戦時中は人口40万余の軍港都市となっていた。

資料収集により作成した生徒のグラフ



しかし、図1・2・3のように、国民生活のレベルは低下する一方だった。

そんな人々の心の支えとして、ご神体が必要だったのではないかな？

大師堂落成時の時代背景

年代	おもなできごと (広島西部朝日会資料)
	※太字は呉市関連
昭和49	タンカー「日精丸」(当時世界最大級)石川島播磨重工で進水
昭和50	広島東洋カープ、リーグ初優勝
昭和51	ロッキード事件で田中前首相逮捕
昭和53	新東京国際空港(成田)開港 第1回呉海上花火大会開催 中通商店街アーケードを市民公募で「れんがどおり」と命名

年表からわかるように、呉市では造船事業が活況となり、大師堂落成時の51年には景気が上り調子であった。だから寄付を募り建立できたのではないかな？

○まとめと感想

瀬戸内海の温暖な気候と山々に囲まれた地に祭られたご神体。野呂山麓穴水から運ばれ地域に根ざし、信じられ、しっかり守られていた。

世話人さんは、めったにない福耳の持ち主であり、お百度石の回り方や、ご神体かけられたよだれかけの意味(災いを取り除くための願掛け)を聞くうちに、私も信じてみたい気持ちになった。

世話人さんには調査に協力していただき、また、「お金を残すのではなく徳を残さない」というすばらしいお言葉をいただき、とても感謝しています。

○次回調べてみたいこと

- ・穴水の具体的な場所について
- ・広にある他の石碑の数や由来について



(予想)ピンクで塗った当たりに穴水があるのではないかな。

◎作品について

この作品は、日常の疑問から出発し、「石碑のお堂に行く途中には・・・」というように次々に謎が解けていくお話形式でレポートがまとめられていて、たいへんおもしろい作品である。そして聞き取り調査のみに終わらず、時代背景をもとに考察をつけるわえて考えた点がよかった。

その他の作品としては、学校近くを流れる水路の水がどこからきて、どこに流れているのか、川の上流から、河口までの道のりを新聞形式にまとめた作品もあった。



中国新聞より

この調査レポートが多くの生徒の興味を惹き、川を昔のようにきれいにしようという取り組みに発展した。また、それが地方紙にも紹介された。

町内の3軒のパン屋を調査対象にした生徒は、パンの名前の決め方、1日のようす、昔と今との違いなど10項目を比較し、さらにパンの歴史についても調べた。この生徒のパン屋への興味は、次年度の職場体験学習へと発展した。

郵便局に興味をもった生徒は「人口何人に対して郵便局が1局あるのか」「各郵便局の職員の数の違いはなぜか」「なぜ郵便小包が減ってしまったのか」「わが国の郵便の歴史と広町の郵便の歴史」などについて作品にまとめた。この生徒は、地域の郵便局に着いて調べはじめるうちに、わが国の郵便の歴史にまで興味がわき、職員の制服やポストの変遷など集めた資料をわかりやすくまとめた。

呉市の歴史と造船についてというテーマで調査した生徒は、造船所や市役所、歴史資料館などに足を運び、戦艦大和に搭載された大型冷蔵庫が、戦後の家電技術の基礎となったり、大和の球状艦首がタンカーや漁船に採用されたりしていることを調べた。この大和の技術が戦後の日本の復興を支えたことを知り、呉市が造船の町として発展してきた歴史的経緯をみつけだした。また、「肉じゃが」が海軍の兵員たちに栄養バランスのよい料理として生まれたことなどについても知り、過去から現在への繋がりを一つ一つ発見するごとに驚きと喜びをみだしていた。

まとめた。2学期に入り、総合的な学習の時間に各自のレポートをもちより、グループで発表会に向け準備をした。

発表方法もさまざまで、パソコンを用いプレゼンテーションを行うグループ、また、模造紙を用いたグループは、見る人が興味をもつようイラスト・写真・レイアウトに創意・工夫がみられた。

生徒の作品



4 2年生の取り組み

2年生では、調査したものをわかりやすく相手に伝える力をつけることをねらいとして、調査結果をまとめ発表する取り組みに力を入れた。

まず、調査対象は、市内の史跡とした。次に呉市を六つの地域に分けた。そして、夏休みに1日を使い、六つの地域をグループ単位でフィールドワークを行った。

フィールドワークを行うに当たり、事前に、史跡について書籍やインターネットで下調べをした。次に電車やバスの時刻表や道路地図をもとに1日の行動計画表を立てさせた。

調査結果は、8月中に各自がB4のレポートに

5 おわりに

昔の子どもたちは、地域の野や山を走り回ったり、路地で隠れん坊や鬼ごっこという遊びをする中で地域のいろいろな情報を得ていた。しかし、現代の子どもたちは、遊ぶ場所も特定の場所、多くは建物の中であり、自分たちが生活する地域についてあまり知らない。地域の調べ学習をすることにより、多くの発見があり、それを発表することで、仲間と共有することができた。

さらに地域で暮らす人々と交流することで、コミュニケーション能力を高めることもでき、自分も地域の一員として自覚することができたようだ。